

		氏名	所属	肩書	登壇者よみ	プロフィール
セッション①	登壇者	坪井 俊輔	サグリ株式会社	代表取締役 CEO	つばい しゅんすけ	横浜国立大学理工学部を卒業。大学在学時に、民間初の宇宙教育の会社、株式会社うちゅうを起業。その後、衛星データ(Satellite)×機械学習(AI)×区画技術(GRID)を掛け合わせ、農業と環境の課題解決を目指すサグリ株式会社を2018年に設立。同社の代表取締役CEOを務める。インド・バンガロールにも子会社を設立。農林水産省デジタル地図の検討委員を務める。札幌市のスタートアップ支援制度にも採択され、北海道新篠津村との衛星データによる土壌分析プロジェクトを推進。2022年6月には衛星データで作付け調査を効率化するアプリケーション「デタバ」を発表。MIT テクノロジーレビューにて未来を創る35歳未満のイノベーターの1人に選出。情報経営イノベーション専門職大学 客員教授。ソフトバンクアカデミア13期生。
	登壇者	西岡 一洋	Kisvin Science株式会社	代表取締役社長	にしおか かずひろ	植物が根から吸い上げる樹液の流量を計測する低コストな樹液流センサを開発、自ら農業シーンへの普及定着に向けて東大ベンチャーを複数創業。植物水分生理学を武器とした醸造用ブドウ栽培学がライフワーク。15年前より山梨を中心にワイナリー経営に関わり国内外でフライングコンサルタントとしても活動。北海道余市の平川ファームとも事業連携し、樹液流センサを用いた定量的かつ緻密な樹冠管理を展開。国際的に活躍中の日本人醸造家らとオンラインサロン"ワイン解体新書"を2020年に立ち上げる。
	登壇者	藤井 雄一郎	有限会社藤井牧場 日本A2ミルク協会	代表取締役 代表理事	ふじい ゆういちろう	北海道開拓期より118年続く酪農一家の5代目。乳牛1000頭と500Ha(東京ドーム120個分)の畑で酪農業を営む。帯広畜産大学在学中に渡米し、世界一の酪農家と呼ばれたF・ヘルフターに師事。卒業後、法定伝染病「ヨーネ病」を発症し倒産寸前だった実家の牧場経営を回復させる。「開拓者たれ」を経営理念に、「オンリーワン牛乳」を目指し、農場HACCP認証や、サンドセパレーター導入など数々の日本初の事業に取り組み。2016年から生乳を農協を通さず自主流通化。「牛も人もどんどん育てる牧場」をスローガンに全国から集まる酪農を志す若者にも指導。2030年に後進育成の新たな農村モデルとして『富良野未来開拓村』設立を予定。2014年農水省「食料・農業・農村」政策審議委員に選出。農業基本政策計画の策定に関わる。
	モデレーター	川名 祥史	株式会社リバネス 研究開発事業部 株式会社アグリノーム研究所	部長 取締役	かわな よしふみ	横浜国立大学大学院環境情報学府修了(博士 環境学)。2008年より横浜国立大学VBL講師、株式会社LDファクトリーの代表を経て、株式会社マイロブスの取締役に就任。2014年11月より株式会社リバネス地域開発事業部、2017年から株式会社アグリノーム研究所の取締役を兼任し、現在、株式会社リバネス研究開発事業部長。植物工場事業や飲食事業、アグリテックベンチャー支援など、農林水産業に関わる新規事業の立ち上げに関わる。また、日本全国での超異分野学会の地域フォーラムを展開し、2021年12月にはチャレンジフィールド北海道との共催で北海道フォーラムを立ち上げる。
セッション②	登壇者	豊川 知華	株式会社ユーグレナ R&Dセンター 先端科学研究所	研究員	とよかわ ちはな	2020年に京都大学大学院にて博士号(生命科学)を取得。同年、株式会社ユーグレナに入社。微細藻類の可能性を引き出すことで、様々な社会課題の解決に取り組んでいる。入社後、石垣島の生産技術研究所にて、食品用ユーグレナの風味向上の研究に携わる。現在、先端科学研究所にて、SPACE FOODSPHREのプロジェクトに携わり、閉鎖空間における資源循環型の食料生産に微細藻類を利用することを研究している。
	登壇者	石川 まるみ	国立研究開発法人理化学研究所 バトンゾーン研究推進プログラム 微細藻類生産制御技術研究チーム	テクニカルスタッフ	いしかわ まるみ	2013年に明治大学大学院で博士号(農学)を取得。「科学で世界をワクワクさせる」を実現すべく株式会社早稲田塾に入社、中高生向け最先端科学プログラムを企画・運営。育児中は、個人事業主として健康食品や医療関係のサイエンスライティングや絵本を制作・出版。2019年より神奈川大学工学部で研究員として復帰し、現在は理研とユーグレナ社の共同チームにてミドリムシの品種改良や市民参加型研究「みんなのミドリムシプロジェクト」の運営および解析を担う。
	登壇者	吉藤 オリィ	株式会社オリィ研究所	代表取締役 CEO	よしふじ おりい	高校時代に電動車椅子の新機構の発明に関わり、2004年の高校生科学技術チャレンジ(JSEC)で文部科学大臣賞を受賞。翌2005年にアメリカで開催されたインテル国際学生科学技術フェア(ISEF)に日本代表として出場し、グランドアワード3位に。高専で人工知能を学んだ後、早稲田大学創造理工学部へ進学。自身の不登校の体験をもとに、対孤独用分身コミュニケーションロボット「OriHime」を開発(この功績から2012年に「人間力大賞」を受賞)。開発したロボットを多くの人に使ってもらうべく、株式会社オリィ研究所を設立。自身の体験から「ベッドの上にながら、会いたい人と会い、社会に参加できる未来の実現」を理念に、開発を進めている。ロボットコミュニケーター。趣味は折り紙。2016年、Forbes Asia 30 Under 30 Industry, Manufacturing & Energy 部門 選出。
	モデレーター	瀬野 亜希	株式会社リバネス 研究開発事業部	—	せの あき	大阪大学大学院生命機能研究科修了。修士(理学)。2012年リバネスに入社以来、教育開発を軸に活動。エンジニアリングや食糧生産など企業人と中高生の連携による研究プロジェクトのプログラム開発や、中高生の研究サポートプログラム開発等の経験を豊富に持つ。大人たちが見失いがちな自身の仕事のビジョンを、次世代の仲間となる子どもたちに伝えていく活動を、企業や学校、自治体を巻き込みながら行っている。